

ヘルスアウトカムリサーチ支援事業
第14回 CSP-HOR年会

大橋靖雄先生のQOL研究の功績



中央大学HPより 2015年

下妻 晃二郎

Kojiro Shimozuma, MD, PhD

元 CSP-HOR運営委員会 副運営委員長

立命館大学 生命科学部 (特任教授/名誉教授)
同大学 総合科学技術研究機構 医療経済評価・意思決定支援ユニット(CHEERS) (ユニット長)

Oct. 15, 2022@丸ビル

1

黙 禱

2

私の人生に大きな影響を与えていただいた 大橋先生との出会い

- 最初の出会い — 1990年代 治験の効果判定委員会
 - 医学・臨床試験に対する熱い姿勢と深い知識に驚愕、尊敬
- 臨床疫学における生物統計学の重要性を認識
- 1990年代、殆ど誰も理解してくれなかったQOLや医療経済研究への理解
 - 個人的な思い出として、1997年UCLAに留学中にNSABPへの参加を兼ねて訪ねて来てくださったリ、ASCOやSABCSに何度か同行させてもらい、色々な話を伺った。
- CSPORや各種セミナー合宿での夜中の議論の内容が、明朝には具体案として提案される
- 常にpositive thinking、有言実行、驚くべき記憶力
- お弟子さんのキャリアパス構築への多大な功績
- 常にダンディ

3

CSP-HOR発足と年会開始の経緯

- 乳癌補助療法臨床試験である、NSAS-BC 01(1996-)と02(1998-)を開始していたCSPOR-BC (乳癌臨床試験支援事業)(2000-)において、QOL評価と医療経済評価研究がすでに開始されていたが、海外の臨床試験グループ(NSABPやEORTCなど)に倣い、それらを専門に研究する事業を別建てにしたいという提案に大橋先生が合意して下さり、CSP-HORが2005年に発足した。
- 日本ではまだ数少ない当研究分野の成果を広く広報したり議論を行う機会を持つために、2007年から年会が開始された。
- QOLとHTAの話題を交互に扱うことが多いが、PPEやデータベース研究、メディアへの情報発信など、ホットな話題にもチャレンジしてきた。
- いずれも、大橋先生の幅広い分野の知識や先取性、そして広大なネットワークがなければ成り立たないものであった。

4

HOR年会のテーマと概要

回	開催年月日	テーマ	会場	参加者数
第1回	2007/6/23	第1部：CSP-HOR研究活動報告 第2部：Breast cancer survivors: Quality of life & Quality of care	東京大学鉄門記念講堂	93
第2回	2008/6/21	第1部：教育講演（QOLの評価・解析） 第2部：ヘルスアウトカムリサーチの社会への還元（シンポジウムとディスカッション）	東京大学鉄門記念講堂	77
第3回	2009/6/27	テーマ：医療・薬剤経済研究の医療技術評価（HTA）への応用 プレセミナー：医療経済評価の方法と用語解説 第1部：世界および国内におけるHTAの動向 第2部：日本版NICEは必要か？	東京大学山上会館	113
第4回	2010/7/3	テーマ：いよいよ始まる！医療データベースの研究利用と社会還元 第1部：FDA PROガイドスの解説第2部：日本版NICEは必要か？ 第2部：HOR研究の成果 第3部：大規模データベースの利用環境 第4部：大規模データベースを用いて何が出来るのか？その可能性と課題	東京大学弥生講堂	165
第5回	2011/6/25	テーマ：医療経済評価の政策への応用を考える 第1部：CSP-HORの成果と目指す方向 第2部：医療経済評価の政策への応用を考える	東京大学鉄門記念講堂	200
第6回	2012/7/7	テーマ：医療のエビデンスをどう伝え、どう活かすか 第1部：エビデンスを理解するために 第2部：エビデンスをどう伝え、どう活かすか	東京大学鉄門記念講堂	185
第7回	2013/7/13	テーマ：アウトカムに関する個人と社会の選択 -効率性と公平性- 第1部：日本と諸外国のアウトカム研究の動向 第2部：アウトカムに関する個人と社会の選択	東京大学伊藤国際学術研究センター B2「伊藤謝恩ホール」	137 ₅

第8回	2014/6/21	患者視点の医療技術評価の課題 - QOL/PRO研究の最前線	東京大学伊藤国際学術研究センター B2「伊藤謝恩ホール」	110
第9回	2015/6/27	ヘルステクノロジーアセスメント(HTA)における Real World Dataの応用の可能性	東京大学鉄門記念講堂	124
第10回	2016/8/20	テーマ：「QOL評価の最前線～10年の振り返りと今後の展望～」 【HORの研究から】 【記念講演】「がん治療研究におけるQOL評価とその変遷」 【原点にかえったQOL/PRO評価の基本】	東京大学鉄門記念講堂	126
第11回	2017/7/1	テーマ：「疾病特異的なアウトカム指標とその評価～臨床現場の視点からQOL評価をどう治療に活かすか～」 1. HORの研究から 2. パネルディスカッション～疾病特異的なアウトカム指標とその評価～ 3. 基調講演	東京大学鉄門記念講堂	83
第12回	2018/6/30	テーマ：「アプレイザルの概要と今後の展望」 【QOL評価・医療経済評価について】 【基調講演】 【総合討論】	東京大学鉄門記念講堂	74
第13回	2019/6/22	テーマ：「PRO-CTCAEをどう活かすか～患者視点の応用・医療現場での応用～」 【第1部】 【第2部】	東京大学鉄門記念講堂	75

6

大橋先生とともにCSP-HORで歩んで来られた 多くの方々に感謝します

- CSP-HORに貢献してこられた**研究者の方々**、**パブリックヘルスリサーチセンター**や**CSPOR**、**CSP-HOR**、**J-CRSU**の方々、**年会講師**を勤めてくださった方々（2015年第9回年会 矢形寛先生は他界）など、支えてくださっている多くの方々に改めて感謝します。
 - お一人お一人、また一つ一つの研究に言及する時間は本日はありませんので、大変失礼ながら紹介を割愛させていただきます。
- 今後日本でも飛躍的に**AIを含むICT技術**が応用され、**QOL評価研究は飛躍的に進歩・変貌**すると思われる。
- 一方、近年の世界的な経済的低迷をみても、2019年から日本で開始された**HTAは、必須の政策課題**となり、益々注目、進歩すると思われる。
- 今後も、**大橋先生の薫陶を受けた若い方々は、ぜひ新たな革命を起こし、人々や社会の幸せに貢献していただくことを期待します。**

7

大橋靖雄先生 有難うございました!
これからも若い研究者の歩みを
温かく見守ってください



8